

# International SAKE Challenge 2011

第5回インターナショナル・サケ・チャレンジ

Monday 25th July, 2011  
Deadline: Friday 17th June 2011

2011年7月25日月曜日 開催  
2011年6月17日金曜日 申込締切

エントリー・キット

International  
SAKE  
Challenge  
2011

**Steven Spurrier****共同審査委員長 スティーブン・スペリエ**

第5回インターナショナル・サケ・チャレンジ2011への皆様のご参加を心より歓迎いたします。

“SAKE”は世界的にも”日本の酒”として知られ、日本の伝統、歴史、日常生活を語る上で欠かすことはできません。約20年前にアカデミー・デュ・ヴァン東京校設立時に初来日して以来、私は日本酒と日本文化との密接な結びつきに夢中になってしまいました。近年、フランス等のワイン生産国で見られる傾向と同様に、日本国内での日本酒の消費は低迷を続けております。特に日本では多くの若い消費者が、自分たちのライフスタイルに合うものとして、ワイン等の「国際的な」飲料へとその関心対象を移しています。

むしろ、日本酒への関心と認知は、海外市場で成長しています。しかし、日本酒の海外輸出売上高はまだまだ小さく、全生産量に占める比率は微々たる物です。こうした現状の背景には、海外の消費者と市場が日本語の日本酒ラベルや言葉に戸惑って、日本酒の世界へと自信を持って入りにくいという深刻な問題があります。ワインの場合もかつて、日本市場で同様の問題に直面し、それを契機に私が審査委員長を務めるジャパン・ワイン・チャレンジが設立されたのです。このワイン・チャレンジは回を重ねるに連れ日本市場と消費者にとって優秀なワインを見極めて提供するためのツールとして認められるようになりました。

従って、時間はかかっても、このインターナショナル・サケ・チャレンジが、日本国内外から集まった最高の審査員達が共に、世界中の日本酒愛好家にとって最良の日本酒を選ぶ、毎年恒例の国際的な日本酒審査会として認められるようになるもの、と確信しております。本チャレンジで受賞した日本酒は、シンプルなメダルシール

をボトルに貼るだけで、世界中にそれが「お勧めの日本酒」であるという分かりやすいメッセージを簡単に伝えることができ、すぐに認知され、賞賛されることになるでしょう。我々は皆様の大きな成功を願っております！



スティーブン・スペリエは、世界的に著名なイギリスのワイン雑誌

「デカンタ」マガジンのコンサルタント編集者です。彼は1974年アカデミー・デュ・ヴァンを設立し、パリやロンドン、東京へと広げ、あっという間に世界のワイン教育に強力な影響力を持つ学校へと育てました。1982年からはマイケル・ブロードベントMWと共に、クリスティーヌ・ワイン・コースを立ち上げました。彼は現在、デカンタ・ワールド・ワイン・アワードの審査委員長でもあります。

彼を最も有名にしたのは、1976年のパリ・インターコンチネンタルホテルを舞台に彼がオーガナイズし、初めて優秀なカリフォルニアワインが、フランスの伝統的ワインのライバルとして同等のレベルであると知らしめた「パリ審査」でしょう。彼は世界で最も素晴らしいパレットを持っていると、広く認められています。そして彼は、世界ワイン業界をリードするインスティテュート・オブ・マスターズ・オブ・ワインと共にアジア最大のワイン審査会であるジャパン・ワイン・チャレンジの審査委員長を務めるなど、日本のワイン市場における近年の発展期に密接に関わってきました。

**Anthony Rose****共同審査委員長 アンソニー・ローズ**

私がインターナショナル・サケ・チャレンジに審査員として参加させて頂いて今年で3年目となります。最初に参加した2007年から比べ、日本酒のイギリスや諸外国における存在感についてより実感できる様になりました。日本の醸造から代表者達がロンドンを訪れ、イギリスの業者相手にきき酒を行い、レストランや高級小売店が日本酒を世界の中でも歴史のある酒類として認知して行くのを目撃しました。

現在の所、日本酒のマーケットはまだまだニッチであり、一部の先駆者達の間にしか認知されていません。しかし、私は日本酒への存在的需要はまだまだ手付かずに残されていると確信しています。イギリスや諸外国へ高級な日本酒を輸出し続ける確固とした意思が継続する限り、日本酒が酒類販売市場の主流へ参入する余地はあります。しかし、その為には高いコミュニケーション能力と、時間、金銭、そして情熱の継続した投資が必要となります。

アンソニー・ローズはイギリスの有力なインディペンデント誌の特派員です。週刊のコラム(www.independent.co.uk)を執筆し、ワインや

旅行関連の記事を寄稿しています。またデカンタ誌とワールド・オブ・ファイン・ワイン誌にも寄稿していて、更にリース・スクール・オブ・フード&ワインのサティフィケート・コースとWSETの初級コースの講師も務めました。デカンタ・ワールド・ワイン・アワードではオーストラリア地域とデカンタ・ワイン・リテール・アワードの委員長を務めています。



ワインに関する執筆では2008年にルイ・ロデレールの年間最優秀国際ワインコラムニストに選ばれて事を始め多数の受賞歴があります。ザ・ワイン・ギャング(www.thewinegang.com)の創設メンバーであり、ブログや記事寄稿を行っています。ブログに関しては自身のサイト(www.anthonyrosewine.com)についてもルイス・ロデレールの国際ワイン賞の候補となっています。

**Dr. Tetsuo Hasuo****共同審査委員長 蓮尾 徹夫**

神代の昔より、日本の民族酒として、日本人に癒しと楽しみを供給してきた文化と伝統の酒である日本酒は、いま日本という原産国だけに留まることなく、世界のアルコール飲料としての地位を確立しようとしています。こうした時期に当たって今般、インターナショナル・サケ・チャレンジが東京で開催されることは、日本酒の国際化にとっての一里塚であり、大変意義深いものと考えます。また、本チャレンジに出品される多くの日本酒の鑑定に当たっては、我々日本人審査員が長年培ってきた評価の方法と、海外市場・消費者の評価を体現する、国際審査員の評価をすり合わせるにより、今後確立すべき真の世界的な日本酒の評価の形を提示する機会になるものと期待をし、今回、公平・公正な立場から審査委員長の責めを全うしたいと考えております。

蓮尾博士は、1943年福岡県大牟田市に生まれ、九州大学農芸化学科卒業後、1967年国税庁入庁。その後、名古屋国税局鑑定官室を始め、大阪、福岡、関東信越、東京国税局の鑑定官室に勤務しました。また那覇税務署副署長や国税庁醸造試験所の研究員、主任研究員を歴任

し、国税庁鑑定企画官、国税局酒類監理官なども務めました。1984年には東京大学より農学博士の学位を授与されています。35年にわたり日本酒の鑑定官を務め、その経験を「日本酒鑑定官35年」として上梓しました。退官後は、2002年から2008年まで日本酒造組合中央会の理事を務めていました。同会では様々な技術的問題に対応すると共に、「女性のためのOsakeスクール」の校長(講師)を務めるほか、杜氏組合の鑑評会の審査員を毎年務めて、近年は全米日本酒飲評会、International Wine Challenge/ SAKE部門の審査員を務めるなど、国内外で日本酒の啓蒙・普及活動を行っています。2008年に中央会理事退任後は日本醸友会会長として醸造に関するシンポジウムきき酒会を開催しています。



第4回インターナショナル・サケ・チャレンジでは、審査員長の下、日本酒エキスパートの方々に日本側審査員としてご参加いただきました。第5回においても日本国内の利き酒専門家の方をお招きし、海外審査員と共に審査を行っていただきます。

## 【2010年度参加審査委員】

蓮尾徹夫（審査委員長、日本酒造組合中央会理事）  
木村克己（日本酒造組合中央会日本酒スタイリスト）  
フィリップ・ハーバー（英国人杜氏）  
松崎晴雄（日本酒ジャーナリスト）

内山幸二（酒造コンサルタント）  
ジョン・ゴントナー（日本酒ジャーナリスト）  
堀江修二（島根大学地域共同研究センター客員教授）  
友田晶子（日本料飲ビジネス研究会会長／トータル飲料コーディネーター）

## Haruo Matsuzaki

審査員 松崎 晴雄

日本酒の価値を世界に広めていく場として、本年も「インターナショナル・サケ・チャレンジ」が行われることを、大変喜ばしく思います。それはこの審査会が単に賞を設けて表彰を行なうだけでなく、出品される酒全体が香味の多様性、技術の優秀性、地域性や蔵元の個性といった情報を雄弁に語り、世界に向けて発信していくことになると思うからです。その意味で審査員の役割も非常に重要ですが、日本国内と海外各地の著名な酒類専門家、ジャーナリストから構成されるメンバーには、目を見張るものがあるといえるでしょう。毎回参加して感じたのは、真摯に酒をきいていく姿勢は万国共通であるということ。各人が感性を研ぎ澄ませき酒を進めていく雰囲気、まさに世界市場へと日本酒が雄飛していく瞬間を見たような思いがしました。今回もまたその一員に加わることを光栄に思います。

松崎氏は世界に向けて日本酒のイメージ向上、普及啓蒙に努め、各種セ

ミナーや試飲会等の活動を行なっている主要人物の一人として、広く知られています。彼は大手百貨店の酒類バイヤー、売場担当を経て1997年に独立し、以後は日本酒を中心とする酒類ジャーナリスト、コンサルタントとして活動してきました。日本酒に関する著書も多く、連載も数多くこなし、毎月数ヶ所で愛好家向けのセミナー講師を務めています。

また同年に設立された「日本酒輸出協会」会長を務めるほか、長野県、佐賀県、原産地呼称制度の審査委員や、福島県、静岡県、酒造組合の嘱託を受けて、各県の鑑評会の審査員を務めるなど、そのきき酒能力には定評があります。純粋日本酒協会主催のきき酒コンテストでは、通算30回以上名人として認定され、「永久名人」として表彰されています。



## John Gauntner

審査員 ジョン・ゴントナー

今年7月に開催される第5回インターナショナル・サケ・チャレンジが、大きな成功を収めた昨年の第4回のイベントを超えるものになるよう期待しています。昨年は、日本酒業界から松崎晴雄氏を初めとする審査員、そして世界各国から、各国のワイン業界を代表する、著名なワインの権威からなる海外審査員によって行われました。長期的視野においては、昨年と同様、全般的に極めて高水準である日本酒の質と、日本酒が大いに楽しめる嗜好品であるという良いニュースを、高級飲料を理解しプロモートする人々に、もっと広めることにあります。昨年、例外なく、海外審査員全員が日本酒の世界の面白さ、複雑性、奥深さ、そして全般的な品質レベルの高さに対し驚きを口にしていました。昨年の審査委員長スティーブン・スベリエ氏曰く、「我々は目を見開き、口を開いたのです」。昨年同様、我々は日本酒への注目度、理解、認識、そして愛を国際的に盛り上げることで、インターナショナル・サケ・チャレンジの可能性が、大きくなると信じています。そして我々は昨年同様、皆様のご参加とご支援を心から歓迎いたします。

ジョン・ゴントナーは日本酒ジャーナリスト・教育者であり、外国人

の日本酒エキスパートとして世界に広く認められています。彼は日本酒に関して、4冊の著作と、新聞の長期連載コラムなど、英語あるいは日本語で何百もの記事を書いています。また彼は日本人以外ではただ一人、日本政府に協力し、蔵元に世界市場についての講義とアドバイスを発行しており、県レベルの公的な品評会において審査員を務めています。

英字新聞「Japan Times」や読売新聞で、日本酒についてのコラムを執筆してまいりました。そして東京都内で、日本酒の講演や勉強会で講師を務めるなどの活動を行っています。さらに外国人としては唯一の吟醸酒研究機構のメンバーであり、地方自治体の鑑定会で公式テイスターとして参加し、純粋日本酒協会から酒鑑定技術の正確さを認められ、「利き酒名人」を受賞しています。また、ハーバード、エール、コロンビア大学やウォートンビジネススクールなど、アメリカと日本をまたがって様々な場所で講演を行っています。



## INTERNATIONAL JUDGES 海外審査員

(以下敬称略、一部予定を含む)

### Andy Dias Blue (US)

アンディ・ダイアス・ブルー (アメリカ)

アンディはおそらく、アメリカ最先端のワインライターである。テレビのレギュラー番組を持ち、アメリカの有力グルメ雑誌の一つ「ボナベティ」の編集者でもある。アメリカの有名なワイン審査会であるサンフランシスコ・インターナショナル・ワイン・コンペティションの創立者兼事務局長である。



### Lynne Sherriff MW (UK/South Africa)

リン・シェリフ MW (イギリス/南ア)

インスティテュート・オブ・マスターズ・オブ・ワインの主要教育者の一人。5年間毎年来日し、ジャパン・ワイン・チャレンジの審査員を務め、またデヴィッド・リグリーと共に日本人審査員にマスター・オブ・ワイン育成のためのセミナーを行っている。



### Michel Bettane (France)

ミシェル・ベタン (フランス)

フランスの有名ワインライターであり、世界でもトップクラスの一人。フランス最高峰のワイン雑誌名門「Bettane&Desseave Classement des Meilleurs Vins」のチーフエディターである。



### David Wrigley MW (UK)

デヴィッド・リグリー MW (イギリス)

ワイン&スピリット・エデュケーション・トラスト (WSET) のインターナショナル・デベロップメントディレクター。WSETはワイン及びスピリットに関する教育機関で、毎年47カ国24,000名が受験している。彼は日本酒の熱狂的ファンで、「酒サムライ」の候補になったほど。ジャパン・ワイン・チャレンジのため毎年来日している。



## The Institute of Masters of Wine

【インスティテュート・オブ・マスターズ・オブ・ワイン】

インスティテュート・オブ・マスターズ・オブ・ワインは、ワイン業界における教育的な業績を推進する為の最高レベルの機関で、マスター・オブ・ワイン (MW) は最高峰の資格として国際的に認知されています。インスティテュート・オブ・マスターズ・オブ・ワインは、ワイン教育の先端をゆく威信のある位置づけである事を誇りに思っております。インスティテュートは、ワイン業界の中で、次の世代の高い知識を持つプロになる熱心な人々の関心の的となっています。今回2名のマスター・オブ・ワインが、インターナショナル・サケ・チャレンジの審査員として参加します。



WEB サイトは、<[www.mastersofwine.org](http://www.mastersofwine.org)>

\*注釈: MW・・・” Master of Wine (マスター・オブ・ワイン)” の略称。インスティテュート・オブ・マスターズ・オブ・ワインが認定する、世界最高峰の資格として認知される称号です。

## Wine & Spirit Education Trust (WSET)

【ワイン・アンド・スピリット・エデュケーション・トラスト】

1969年にワイン&スピリッツ業界によって設立された Wine & Spirit Education Trust (WSET) はワイン&スピリッツの教育のすぐれたコース内容と講義において他に類を見ない実績があります。現在では WSET はワイン&スピリッツ業界において世界規模で教育を提供する最大の機関で、47カ国の24,000人以上の受験者が13カ国以上の言語による WSET の試験を受けました。日本においては WSET の資格は JAL アカデミーとアカデミー・デュ・ヴァンにおいて得ることが可能です。WSET に関する詳細(人々、資格、コース供給者など)はウェブサイトまでアクセスください。WSET はインターナショナル・サケ・チャレンジに協力できることを喜ばしく感じております。デヴィッド・リグリー MW は WSET のインターナショナル・デベロップメントディレクターです。



WEB サイトは、<[www.wset.co.uk](http://www.wset.co.uk)>

## San Francisco International Wine Competition

【サンフランシスコ・インターナショナル・ワイン・コンペティション】

サンフランシスコ・インターナショナル・ワイン・コンペティションはアメリカで最も重要な国際ワインイベントで、毎年4,000以上ものエントリーがあり、現在29年目を迎えています。インターナショナル・サケ・チャレンジに関わることを誇りに思っております。アンソニー・ダイアス・ブルーは、SFIWC のエグゼクティブ・ディレクターです。



WEB サイトは、<[www.sfwinecomp.com](http://www.sfwinecomp.com)>

## ISC 2010 審査結果

第4回インターナショナル・サケ・チャレンジには、おおよそ134種類の酒の応募があり、各6分野のそれぞれについて、海外審査員と日本人審査員が一堂に会して、厳正なる審査を行い、所定の各賞を決定いたしました。その結果、金賞7種、銀賞68種、銅賞49種、推奨賞5種が選ばれました。さらに金賞受賞酒の中から、5種の日本酒が見事トロフィーを受賞しました。

### \* 告知 \*

授賞式を2011年7月29日金曜日午後、グランドハイアット東京にて開催

本年は、授賞式を7月29日(金)に開催いたします。ジャパン・ワイン・チャレンジの授賞式と同時開催となります。最優秀賞授与というこの特別な機会にあたり、高円宮妃殿下にご臨席いただけることとなりました。



(高円宮妃殿下と2010年度の授賞者)

- 参加申込書及び参加費用は、2011年6月17日(金)まで受付けております。
- 参加申込は下記宛先まで:お送りください。  
〒103-0004 東京都中央区東日本橋1-9-10 TMEビル インターナショナル・サケ・チャレンジ事務局  
Tel: 03-5825-0150 Fax: 03-5825-2789 E-Mail: info@sakechallenge.com
- 参加申込書及び日本酒フォームには正確に漏れなくご記入ください。  
ご記入いただいた情報を元に賞状に記載いたします。会社名(英語表記を含む)及びご住所、TEL/FAX、ご担当者名、参加カテゴリー、品名、生産県を必ずご記入ください。
- 各日本酒のラベル(裏/表)を同封してください。写真やデータ、PDFファイルでも代替可能です。これはサケチャレンジ専用のラベルシール作成や実際に届く日本酒を確認するために必要です。
- 参加申込書はFAX(03-5825-2789)にてもお申し込みいただけますが、不達等に備えて、申込書原本を上記住所まで郵送していただけますよう、お願いいたします。
- お申込受付後「お申込受付書」を事務局より郵送でお送りします。「お申込受付書」に同封されているラベルシールをお酒の瓶の後ろに貼っていただき、「お申込受付書」のコピーを、日本酒を送る箱の外側に貼付願います。
- 参加日本酒は2011年6月24日(金)までに下記、倉庫までご送付願います:  
〒108-0075 東京都港区港南5-4-12 横浜倉庫品川埠頭営業所 インターナショナル・サケ・チャレンジ2011  
(Tel: 03-5825-0150)  
※倉庫は上記事務局とは住所が異なりますので、お間違えのないようご注意ください。

### 1. お申込者情報

社名/酒蔵名:

社名/酒蔵名-英語表記:

ご担当者:

ご担当者:

ご住所: 〒

Tel:

Fax:

E-mail:

ウェブサイト:

※社名/酒蔵名(英語表記含む)は、賞状並びに出版物等に掲載されますので、お間違えのないようご明記ください。

参加出品数	品	@ ¥24,000(消費税込)	総合計	円
-------	---	-----------------	-----	---

\*出品数の制限はなく、参加費用は1種類につき24,000円になります。

### 2. お支払い方法

#### ●銀行振込

\*下記口座にお振込ください(振込手数料は参加者のご負担となります)。

銀行名: みずほ銀行 支店名: 浅草橋支店(022) 口座番号: 普通1044797

口座名義: ブラウン・アンド・カンパニー株式会社インターナショナル・サケ・チャレンジ

### 3. アンケート

質問: 海外マーケット並びに輸入業者をお探しですか? 下記にチェックを入れてください。

はい  いいえ

- 事務局から請求書は一切発行しません。参加申込み時に参加費用も併せてお支払いください。
- 入金確認後、事務局から領収書を発行します。

**No.** \_\_\_\_\_

お申込社名 / 酒蔵名				
カテゴリー	大吟醸・吟醸 / 純米大吟醸 / 純米吟醸 / 純米 / 生もと・山廃			
品名				
品名 英語表記:	* 英語のニックネームがある場合はご明記ください ( )			
生産県		容量 (1本)		希望小売価格(税込)

※品名(英語表記含む)は、賞状並びに出版物等に掲載されますので、お間違えのないようご明記ください。

※2本以上出品される場合は、本フォームをコピーしてご使用ください。

製品ラベルを貼付願います

裏ラベルを貼付願います

入  
線  
り  
取  
り  
切  
り  
線

## カテゴリー

第5回インターナショナル・サケ・チャレンジのカテゴリーは下記の5つのグループに分かれます。

- 大吟醸・吟醸 ● 純米大吟醸 ● 純米吟醸
- 純米 ● 生もと及び山廃(全般)

本醸造は高級日本酒のクラスに入りますが、2つの理由からカテゴリーとしては含めません。1つは審査の簡素化のため、もう1つは本醸造が高級日本酒の中でも低価格帯に位置しており、海外の消費者にあまり知られていないためです。

生もと及び山廃は、通常、特異なスタイルを持ち、他の多くの日本酒と直接比較することは、例えるなら「オレンジとリンゴ」を比較するように、困難であり、はっきりとした違いがでることが予想されるので、こうした分類になりました。

中にはそれほど独特ではない生もと及び山廃製品もありますので、蔵元が他のカテゴリーに申し込むことは自由ですし、生もと及び山廃部門に申し込むよう強制するものではありません。このように、このカテゴリーは、生もと及び山廃スタイルの特異性を代表するような独特な日本酒で構成されることになるでしょう。

吟醸と純米吟醸は(大吟醸と純米吟醸と同様に)、フレーバーのイメージが一般的に異なっているためカテゴリーを分けました。

## テイasting用グラス

高レベルのワインテスターと高レベルの利き酒のプロフェッショナルとが並んで日本酒を審査するという点が、当イベントの妥当性と信頼性を示す鍵となります。しかしこれらの2つのグループは、通常使用するテイasting用の容器が異なります。そこで審査では、テイasting用ワイングラスと、日本酒用利き猪口を用意します。

日本人かそうでないかに関わらず、審査を行う人に、イベントの妥当性と信頼性がガラス容器の選択によって不運にも影響を受けたと感じさせるような状況は避けるべきです。日本人審査員に「日本酒をワイングラスで評価するのは落ちつかない」と思わせたり、また逆に、海外審査員に「チュー

リップ型のグラスではなく、直立型のタンブラーで、どうやってこのような上質な日本酒を評価できるのか」と思わせたりすることは避けたいと思います。全ての審査員が、ベストを尽くし、結果に満足できるように準備を整える必要があります。

そして海外審査員には、日本人審査員が通常行うのと同じ方法で、日本酒の審査を経験し楽しんでもらいたいと考えます。そこで、審査される日本酒の瓶をテーブルの端に並べ、公式鑑評会で標準の180ccの利き猪口をその前に置きます。全審査員がこの猪口を用い、自分のペースで試飲し、採点を行います。ただし、ワイングラスを好む審査員は、標準ワインテイasting用グラスの使用が可能です。審査員はどちらを使用してもよいのです。なお、リーデル大吟醸グラスもワイングラスの代わりに使用されますが、これは大吟醸の審査のみに限られます。

## 各賞について

金メダル、銀メダル、銅メダル

公正な審査を行うため、全ての日本酒は審査員全員によって審査されます。審査に当たっては20点満点方式が採用されます。金メダルを獲得するためには、20点中18.5点から20.0点のスコアに達しなければなりません。銀メダルは、17.0点から18.4点、銅メダルは15.5点から16.9点のスコアが必要となります。

## トロフィー

上記のメダルに加え、金メダルを受賞した日本酒の中から5カテゴリーに1つずつ、審査員がもっとも優れているとみなしたのものにはトロフィーが与えられます。金メダルが決定した後、トロフィーは決定されます。トロフィーには下記のカテゴリーがあります：

- 最優秀大吟醸・吟醸 ● 最優秀純米大吟醸
- 最優秀純米吟醸 ● 最優秀純米
- 最優秀生もと及び山廃(全般)

## RULES FOR ENTRY 応募方法

### 1. 出展酒の必要条件

同時期に同じ容器から取り出されて瓶詰めされた、単一の日本酒のみが応募資格を有します。総生産量は最低でも1,000リットルが必要となりますが、ボトル容量2リットル以下の特殊な日本酒の場合、総生産量が1,000リットル未満でも、認められる場合があります。ただし、100リットル以下の場合には認められません。

### 2. カテゴリー

参加者は出品する適切なカテゴリー(5つ)を選択する必要があります。出展された日本酒はできる限り同一カテゴリーの日本酒とともに審査されます。

### 3. 参加費用

参加費用は、1種類につき24,000円(消費税込)となります。

お支払い方法は、銀行振込みのみ受け付けます。参加申込みと同時に支払いを行って下さい。入金の確認ができるまでは、正式な参加と認められません。事務局から請求書の発行は一切発行しません。支払い完了時に領収書は発行します。なお、一度支払われた参加費用は返却いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

### 4. 提出ボトル数について

1種類につき3本(720ml)を提出してください。再テイasting、トロフィー・テイasting、写真撮影のため必要となります。

### 5. 参加申込書の送付

2011年6月17日(金)までに下記宛先にお送りください。

〒103-0004 東京都中央区東日本橋1-9-10 TMEビル

インターナショナル・サケ・チャレンジ

Tel: 03-5825-0150 Fax: 03-5825-2789 E-Mail: info@sakechallenge.com

参加受付完了後、事務局より郵送にて「お申込受付書」と、本年度よりサケチャレンジ専用のラベルシールを同封してお送りいたします。

### 6. 日本酒の送付について

2011年6月24日(金)までに宅配便(配送費用は参加者負担)を利用して、下記まで手配して下さい。

〒108-0075 東京都港区港南5-4-12 横浜倉庫品川埠頭営業所

インターナショナル・サケ・チャレンジ2011宛(TEL: 03-5825-0150)

日本酒を倉庫に発送する際、必ず「お申込受付書」に同封されているサケチャレンジ専用のラベルシールを瓶の後ろに貼っていただき、「お申込受付書」のコピーを箱の外側に添付して下さい。箱のボトル入り数および、複数の箱を送る時は箱番号(例: 1/3)を記載して下さい。

発送費用は全て参加者負担となります。参加費・発送費用が支払われなかった場合、参加は認められません。

インターナショナル・サケ・チャレンジ用の日本酒の発送・到着については、参加者がすべての責任を負うものとします。

主催者側では輸送中の事故等の責任は一切負いかねます。

また、日本酒が期日より遅れて到着した場合は、エントリー受付をお断りすることがあります。その場合、参加費用の返金は致しかねますので、ご了承下さい。なお審査日までは15度の定温倉庫で保管しますが、冷蔵保存ではございませんので、その点をご留意ください。

### 7. インターナショナル・サケ・チャレンジのロゴ使用について

インターナショナル・サケ・チャレンジのロゴ入りステッカー(有料)を各メダルおよびトロフィー受賞者に用意しています。ロゴの商標権はインターナショナル・サケ・チャレンジが所有しているので非公認な使用、複製およびロゴの変更は固くお断りいたします。受賞者が広告印刷物、テレビ等の宣伝の目的でトロフィー、各メダルを使用する場合には、その賞がインターナショナル・サケ・チャレンジにおいて授与されたものである旨を明記してください。ご不明な点、ご質問等ありましたら、インターナショナル・サケ・チャレンジまでお問い合わせください。

### 8. 結果発表

審査結果は2011年7月29日の授賞式にて発表いたします。詳細は後日ウェブサイトに掲載されます。また事務局からお手紙と賞状をお送りいたします。

### 9. メダルシール

結果発表の賞状発送時にインターナショナル・サケ・チャレンジのオリジナル・メダルシールの注文書を同封します。

また、ホームページなどにご利用できるデジタルロゴマークもご用意いたします。

# CHECK LIST チェックリスト

参加申込書の送付及び参加費の支払は 2011 年 6 月 17 日 (金) までに行う。

## < 参加申込書送付先 >

インターナショナル・サケ・チャレンジ 2011

〒 103-0004 東京都中央区東日本橋 1-9-10 TME ビル Tel: 03-5825-0150 Fax: 03-5825-2789

参加申込書に必要事項が明記されている (担当者名・住所・連絡先等の会社情報、日本酒情報)。

各日本酒のラベルを参加申込書 (日本酒フォーム) に貼付する、またはラベルの電子データを info@sakechallenge.com まで送信。

参加申込書のオリジナルをインターナショナル・サケ・チャレンジ事務局に送付する。

送付する瓶の後ろに該当するサケチャレンジ専用のラベルシールを貼り、配送する箱の外側に「お申込受付書」  
(両方とも事務局から郵送にて送付) のコピーを貼付。

日本酒の配送料は参加者負担となっている。

日本酒を 2011 年 6 月 24 日 (金) までに、下記横浜倉庫まで送る。

## < 日本酒送付先 >

インターナショナル・サケ・チャレンジ 2011

〒 108-0075 東京都港区港南 5-4-12 横浜倉庫品川埠頭営業所 Tel: 03-5825-0150

## 2011 年 開催スケジュール

2011 年 6 月 17 日 (金)	インターナショナル・サケ・チャレンジへの参加申込書の最終受付日
2011 年 6 月 24 日 (金)	事務局より、エントリー用ラベルシールが届いたら、エントリーした日本酒全ての瓶の後ろに該当するサケチャレンジ専用のラベルシールを貼り、横浜倉庫まで送る
2011 年 7 月 25 日 (月)	インターナショナル・サケ・チャレンジの審査がシェラトン都ホテル東京にて開催される
2011 年 7 月 29 日 (金) 午後	グランドハイアット東京にて授賞式

## Important Dates to Remember in 2011

Friday 17 June 2011	Last date for Entry Forms to be returned to International SAKE Challenge
Friday 24 June 2011	Label stickers for entry will be sent from ISC office for stickering on all bottles. The Sakes to be entered must arrive at the Yokohama Warehouse in Tokyo by this date.
Monday 25 July 2011	International SAKE Challenge Tasting by Judges at Sheraton Miyako Hotel Tokyo
Friday 29 July 2011, PM	Awards Ceremony at the Grand Hyatt Tokyo



## CONTACT

### International SAKE Challenge

TME Bldg. 1-9-10 Higashi Nihombashi, Chuo-ku, Tokyo, Japan 103-0004

Tel: 81-3-5825-0150 Fax: 81-3-5825-2789

## お問合せ先

インターナショナル・サケ・チャレンジ事務局

〒 103-0004 東京都中央区東日本橋 1-9-10 TME ビル

Tel: 03(5825)0150 Fax: 03(5825)2789